

令和 6 年度 第 2 回 高山市子どもにやさしいまちづくり推進委員会 会議録

日 時	令和 6 年 12 月 2 日（月） 13 時 30 分～15 時 00 分
場 所	市役所 2 階 201・202 会議室
出席者	委員 出席 17 名、欠席 3 名、事務局 10 名
開会	進行：こども家庭センター長
あいさつ	こども未来部長
1. 議題 事務局説明	こども計画の骨子（案）について 説明：こども政策課長より 資料により説明
[発言者] 委員	[意見・要旨] ペアレントトレーニングは、参考資料の P9 別紙 5 取組みの柱 1 (2) の取組みの方向性「保護者や支援者への発達段階に応じた適切な対応や方法を学ぶ場の提供」、取組みの柱 2(1)①の取組みの方向性「親子の愛着形成の促進などきめ細かな子育て支援の充実」のいずれかに含まれるのか。
こども家庭センター 長	ペアレントトレーニングは取組みの柱 1 (2)に含まれ、必要な家庭に対し行っているが、今後対象の拡大を考えていることから、方向性を拡充としている。取組みの柱 2(1)①は、「豊かな日常の提供」といった大きな枠組みのなかでの、親子の愛着形成の促進に関する取組みとなる。
委員	資料 2 の 2. アンケート等について、アンケート調査は回答率 96. 1%、公園整備プラン投票は回答率 39. 3%と差があるがその理由は。
こども政策課長	アンケート調査は授業の一環として教育用タブレットを利用して回答してもらったため高い回答率となった。一方、投票は学校等を通じて各家庭で記入いただき用紙を配付・回収したため率は低くなったが、この手法としては高い回答率だったと捉えている。
委員	資料 2 の 5. 直接対話は栃尾小学校と北小学校で実施したとあるが、全小中学校へ打診した結果、2 校での実施だったのか。

こども政策課長	その通りで、今年度は手の挙げた 2 校で実施した。
委員	良い取組みなので、次年度以降も全ての学校では大変だが、できるだけ多くの学校で継続してほしい。
委員	参考資料の P11 別紙 5 取組みの柱 3「誰も取り残さないこども家庭への支援」のためには、実態把握が重要と捉える。現状・課題の中ではヤングケアラーなど表面化しづらい、高校中退後、社会との接点が途絶えるといったことが挙げられているが、実態把握をどのように進めていくと考えているのか。
こども家庭センター長	実態把握は大切であり、取組みの柱 3(1)②の取組みの方向性「学校や地域、関係団体等とのサポートネットワークの整備」などにより、進めていきたい。また取組みの柱 3(1)③の取組みの方向性「県や高等学校、様々な関係機関と連携」では、SNS などを活用した実態把握に取り組むこととしている。
委員	別紙 5 の取組みの方向性には、「支援」や「提供」といった言葉が多いが、これらは当事者にとっては受身の表現であり、こどもが当事者であることから、こどもが主体となる表現を増やしてはどうか。
こども政策課長	こども・若者が主体的に取り組めるまちづくりは大切と考えており、今回の骨子は行政計画としての表現が多いが、本文を書いていくなかでは十分留意したい。また、作成を予定しているこども版のこども計画では、こどもが自分達のことと受取れるような表現としていきたい。
委員	資料 2 の 5. 直接対話については小学校で実施されたが、中学校でも実施すべきでないか。
こども政策課長	中学校も対象に声をかけたが、今回は応募が無く小学校だけとなった。今後は高校も含めて様々な機会を設けていきたい。
委員	資料 1 の 7. 主な取組みの方向性の中に福祉、地域福祉という言葉があまり見当たらないが、必要なのでは。
こども政策課長	今回は骨子のため福祉という言葉は見当たらないが、市民福祉部の取組みも多く、庁内で連携しながら進めている。
委員	取組みを進めるうえでは、人材確保が重要であり、人材確保に関する取組みも必要ではないか。

こども政策課長	人材が大切なことはそのとおりと思っており、鋭意取組んでいきたい。取組みを通じてこどもが成長し、新たな人材となっていくことも期待している。
委員	県のこども計画を勘案するとなっているが、県知事選もあり、県の方針が変わる想定も必要なのではないか。
こども政策課長	方針が変わることは想定しているが、県のこども計画は県議会で議決されると聞いているので、知事が変わった場合も、ある程度継承されるのではないかと考えている。
委員	高山市でも外国人労働者が徐々に増えており、参考資料の P11 別紙 5 取組みの柱 3(3)の「多様性を有するこども家庭への温もりある支援」は重視すべき視点と認識している。在住外国人が多い美濃加茂市では、親が日本語が分からないことから、こどもも授業についていけないといった話も伺っている。今後増加が見込まれる外国人の対応について、今のうちからしっかりと考えておくべきと思っており、今後の取組みの中で進めてほしい。
教育委員会事務局長	高山市においても、外国籍のこどもが 10 数名在学している。各学校では、日本語が不得意なこどもに対し、日本語の初期指導書を活用した学習指導、保護者と連携した学校での教育環境の確保や家庭での取組みの促進、I C T機器の活用など様々に取組んでおり、どれだけでも分かり易いよう、環境に適応してもらえるよう進めている。
こども政策課長	この項目は秘書交流課の取組みに対応しており、人口の約 1 割が永住外国人の多治見市に視察に行くなど、準備が進められている。
委員	参考資料 P9 からの別紙 5 全体を見ると、他市と共通するような施策が多いと感じるが、今回の計画の中で高山市独自の施策について教えてほしい。
こども政策課長	高山市は面積が広く、山間部も多いため移動に時間が必要であることや、多くの観光客が訪れることなど様々な特色があり、地域の特色を活かした取組みを考える必要がある。
委員	資料 2 の 5. 直接対話の結果のその他意見に「こどもだけで乗れるタクシーや車があると良い」とあり、原山市民公園など施設整備が進められているが、そこまでの移動が課題と感じている。

こども政策課長	移動という点では大きな制約がある地域と捉えており、今も様々に取り組んでいるが、他にも方策が無いか検討している。
委員	資料2の5.直接対話の二回目の結果のフィードバックは、こどもたちも意見を出して良かったと実感すると思う。また、今回手を挙げなかった学校へも、こどもの意見が反映されたことが伝われば、多くのこどもが自分の考えをもっと伝えたいと思えると思う。 これまでの中学校の生徒会サミットに加えて、今年度から小学校も児童会サミットを行い、こども達が意見交換をする場を設けた。そんな機会を活かせれば、各校のこども達の意見を取り入れられると思う。
委員	資料1の2.目指す姿では、まちぐるみでこどもを育むことにより、こども、家庭、地域と幸福の好循環に繋がるとされている。他の委員も言われたように、こどもが主体的に動くことで幸福の好循環につながることもあると思うため、そういった視点も色濃く出せるとこどもが主役の計画になると思う。
委員	参考資料P4の別紙1基本施策3の保育環境の充実において「中長期的な人口（保育ニーズ）推計に基づき、私立保育園や私立幼稚園なども含めた保育・幼児教育の受け皿のあるべき姿を描き、徐々に近づけていくといった取組みが必要である」とある。公私立は違いがあり、こどもが減るなかで協力し合っていく必要があるが、今後に向けてどう考えているか。
こども政策課長	保育園、幼稚園の運営法人とは、年に数回、意見交換の場を持たせていただいている。ご心配をかけているが、こどもが減るなかでの公私の役割分担に基づく受け皿のあり方などについて、期間計画の早いうちに案を示して協議させてもらいたいと考えている。
委員	こどもの遊び場について、全てを与えるのではなく、こどもが発達段階に応じた創意工夫のなかで遊びを作ること大切と感じているため、そういった点も考慮して進めてもらいたい。冒険や挑戦に伴い生じる事故への対応が重要であり、権利意識が強い時代のため大変苦慮すると思うが、こども達の自主性を活かし遊ばせるなかで、健全に育てるといった視点も大事と思う。
こども政策課長	関係団体からも同様の意見を多くいただいている。プレーパーク（冒険遊び場）について、今年度ポップ公園でお試的に開催された民間団体がある。今のこどもは遊び方を知らないと言われており、自然な

	どあるものを使って遊べるようにすることはとても大事と思っているため、様々な取組みを考えていきたい。
委員	今年度からこども未来部が発足し、母子健康手帳の交付など窓口が保健センターから本庁舎へ移動となったが、使いやすく便利になったなどの市民意見はあったか。
こども家庭センター長	来庁者が混乱されないよう、従来の保健センター、こども未来部のどちらに來られても足を運ばなくて良いように対応している。相談室も両方に用意している。効果はこれから聞こえてくるのではと思っているが、また報告したい。
委員	自転車のヘルメットについて、多くが着用している小学生に比べ中学生は少ない印象がある。努力義務ではあるがどのように着用促進に取り組んでいるのか。
市民活動部長	ヘルメット着用が努力義務となるのに合わせ、自転車保険への加入が義務化されている。学校と協力してチェックシートなどを利用し、確実な自転車保険への加入を進めている。ヘルメット着用については、自転車通学のある高校での積極的な推進や、保育園・小学校へは交通安全教室などの機会を通じて必要性などを伝えている。中学校は啓発を強化していきたい。
委員	運営する高校ではヘルメット着用の必要性を呼びかけている。義務ではなく強制できないため、家族での相談を促しながら、最後は本人の判断に委ねている。
委員	本委員会は第3回が予定されているが、来年度以降はどうなるのか。市民メンバーを公募する場合はSNSなどを活用して周知してほしい。
こども政策課長	今年度は2月末から3月にかけて第3回を予定している。来年度以降は新計画に合った組織を新たに設置したいと考えている。
委員	広報たかやまには良い情報が多く掲載されているが、全ての家庭に配付されないと聞いている。できるだけ多くの方に届き、読んでもらえるような工夫を続けてほしい。
委員	広報たかやまは新聞をとっていないと配達申し込みが必要と聞いている。まちづくり協議会では、町内会への未加入者を含めた全ての地域住民に必要な情報が届くように、学校の協力もいただき情報伝達を行

委員	っている。 このようにこどものことを考えていただきありがたい。 I C T機器が発達し、当たり前を使うようになっているなかで、小さいこどもが長時間動画を見て育てられるなどにより、発達や運動能力に影響があるのではと心配している。また、小学5年生位から自分の携帯電話を持つことが多く、中高生になるとSNSでいじめが起こるなど、親世代も含めてI C T機器と上手く付き合う方法を学ぶ必要があると感じる。
委員	5歳児健診について、高山市は来年度から取組まれるとのことで、医師会からもお礼を申し上げたい。 その他、医療従事者が減っているなかで医療を志す若者について、市独自の奨学金を設けるなど、人材確保策を一層進めてもらえるとありがたい。
医療保健部長	医療従事者の確保については、現在も岐阜大学と連携した独自の奨学金を設けるなど取組んでいる。また、看護師などの他の人材については医療職に関心のある高校生を対象とした「飛騨メディカルハイスクール」などにより育成を進めている。人材不足については多くの声を聞くため、関係各課とも調整しながら検討したい。 [質疑終了]
閉会	こども家庭センター長